

産業構造審議会・通商貿易分科会

「対外経済政策をめぐる最近の動向」へのコメント

2021年5月24日

渡邊真理子（学習院大学）

1. マルチの枠組みと有志国連合での取り組みは補完的である。
2. 真の経済安全保障は、具体的テーマかつ包括的なビジョンから出てくる有効な産業政策である。
 - ・ 21世紀は 対面コストの削減によるアンバンドリング
19世紀産業革命＝モノの移動コストの削減によるアンバンドリング、
20世紀IT革命＝アイディアの移動コストの削減によるアンバンドリング。
(リチャード・ボールドウィン)
 - ・ マルチの枠組みと矛盾しない産業政策
 - ・ 日本でないとできないイノベーションの場をつくる政策のパッケージ
3. 中国のCPTPP加盟申請交渉は、すでに国家の意思として動き出している。
 - ・ 中国自身の持つ見通しに関する全面的な研究が必要だろう。
 - ・ 中国のメリットは、電子商取引章のルール化の主導権。コストとして国有企業章への調整はすでに開始。ただし、労働章の違いは大きい、中国側がどう考えているかの見通しはわからない。
4. 対外経済政策の立案プロセスの改革
 - ・ (ステークホルダーのいない) 対外経済政策立案にあたって、広い裾野のポジションの専門家が、具体的なイシューについて1, 2日会議をし、多面的に問題を明らかにするプロセスが必要ではないか。

以上。